

建設業賃金2年ぶり増

厚生労働省
確報値

21年度毎月勤労統計調査

厚生労働省が24日発表した2021年度の毎月勤労統計調査結果（確報値）によると、建設業就業者に支払われた月間平均給与額は前年度比0・9%増の42万0150円となり、2年ぶりに増加に転じた。常用雇用労働者数は2・1%増の282・8万人。8年連続で増えた。

調査対象は5人以上が働く事業所。建設業の月間平均給与額の内訳は、固定給に当たる「所定内給与」が1・3%増の32万1446円、主に残業手当になる「所定外給与」が5・1%増の2万5533円。賞与された給与」は2・6%減

の7万3171円だった。
常用雇用労働者の入職率（新たに就職した人の割合）は0・04㌽下回る1・21%。離職率は0・03㌽下回る1・18%。

月間平均総実労働時間は増減無しの164・8時間。調査対象の全16産業で最も長かった。内訳は所定内労働時間が0・5%減の15・0・9時間、所定外労働時間が4・9%増の13・9時間。出勤日数は0・1日少ない20・2日となっている。